山口県立下関北高等学校のホームページにようこそ

「豊かなる緑の里に　新たなる学び舎は立つ 狗留孫は雄々しくそびえ」と詠われる、ここ本州最西北端に位置する本校は、学校創立７８周年を迎えた全校生徒１２５名の下関市北部地域唯一の普通科高校です。

昭和２０年、山口県立滝部女子農業学校として開校し、昭和３１年に山口県立豊北高等学校と校名を変更しましたが、開校以来、北浦地域を代表する高等学校として地域から見守られ、そして愛されてきた学校です。この間、県下でも郡部に所在する高校としては有数の進学校として、その進学実績は高く評価されており、各界の有為な人材を輩出しています。これまでの卒業生総数は１万名を超え、母校の誇りを胸に、広く、またあらゆる分野で活躍しておられます。

こうした中、平成３０年４月に、豊浦町にある山口県立響高等学校と山口県立豊北高等学校を再編統合し、豊北高校の校地に山口県立下関北高等学校を設置、両校が積み重ねてきた歴史と伝統は下関北高校に継承されることとなりました。その後、順次、下関北高校の１期生、２期生を迎え入れ、この３月には３期生の卒業証書授与式が行われました。

下関北高校は、「自助　奉仕　創造」の校訓の下、「主体性をもって多様な人々と協働して学び、地域の活性化や課題解決に貢献する人材（自助）」、「郷土への愛着と誇りをもち、地域や人とのつながりを大切にする心豊かな人材（奉仕）」、「夢や希望をもって未来を切り拓く、確かな学力を備えた人材（創造）」を育てたい生徒像としています。少人数指導や習熟度別指導等による充実した授業をはじめ、学習習慣の定着を図る朝学や課外授業、卒業生によるホームカミングガイダンスなど、３年間を見通した体験的キャリア教育、部活動やボランティア活動、創意工夫をこらした文化祭や伝統を誇る体育祭、地域を探訪するウォークフェスタなど、様々な教育活動に生徒、教職員が一丸となって取り組み、一貫して知・徳・体の全人格的なバランスのとれた教育を推進しています。

また、人口減少・流出といった地域にあって、地域の担い手を育て、地域を活性化するという本校が担う社会的使命を果たすことができるよう、開校と同時に導入したコミュニティ･スクールの仕組みを活かして、地域の皆様の御支援をいただきながら新しい学校づくりに取り組んでいるところです。

新型コロナウイルス感染症もようやく収束の兆しが見えてきました。コロナ禍にあっても、生徒、教職員で知恵を出し合い、新たな価値を見出してきたように、社会が急激に変化し、予測困難な時代の今、本校のスクールスローガンである～One for All；All for One～の精神で、これからも新たな課題に主体的に取り組んでいきたいと考えています。

引き続き御理解と御支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

令和５年４月１日

山口県立下関北高等学校
校長　原本　悦美